

パラオ共和国が本市で事前合宿 東京オリパラ

2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けて、本市はパラオ共和国のホストタウンとして登録され、宮城県蔵王町とともに事前合宿の誘致に取り組んでいます。それを受けて、パラオオリンピック委員会のフランク・キヨタ会長他3人が本市を訪れ、1月14日には事前合宿地の内諾を受けました。

15日には、水戸グリーンカントリークラブで行われた「第6回常陸大宮クロスカントリー大会」や、市内の体育施設などを視察。市民球場や西部総合公園体育館などについて「規模が大きく優れた施設だと思う。本国の施設を造るうえでも勉強になった」と話していました。

【本市を訪れたパラオ共和国関係者】

- フランク・キヨタ（オリンピック委員会会長）
- テミー・シュムル（オリンピック委員会副会長・ペリリュ州知事）
- ケベコル・シュムル（オリンピック委員会アドバイザー）
- ドナルド・ハルオ（大統領特別経済顧問）



▲西部総合公園体育館を視察する4人



◀スターターを務めたキヨタ会長



▲交流会では全員で記念撮影

また16日には、大宮中学校を訪れ生徒と交流しました。はじめに武道場で柔道や剣道を見学。途中から実際に竹刀を持ち、面の打ち方などを体験しました。さらに書道や琴の演奏などにも参加しました。

授業見学の後は体育館に移動し、1・2年の生徒と交流会。はじめに、環玄希生徒会長が英語で歓迎の言葉を述べました。その後、キヨタ会長からパラオ共和国の文化や自然について話があり、生徒からの様々な質問に丁寧に答えていました。

【生徒たちとの交流の様子】

